

第6回環境教育・環境学習ネットワーク会議 議事録

日 時：平成23年9月28日（水） 15:00～17:00

場 所：1号館3階会議室A

出席委員：高橋会長、鈴木副会長、稲委員、宇佐美委員、新宮委員、高橋（直）委員、高橋（正）委員、瀧上委員、橘委員、奈良谷委員、野崎委員、原口委員、依田委員（13名）

事務局：森山環境政策部長

環境政策部環境企画課（本多課長、川村主査、太田主任、西形、高橋）

環境政策部環境企画課自然環境担当（大森課長、秋山主査、角尾）

傍聴：なし

◆ 会議の流れ

- 1 開会
- 2 委員の委嘱
- 3 環境教育・環境学習ネットワーク会議会長及び副会長の選任について
- 4 議題
 - (1) 環境教育・環境学習ネットワーク会議の開催経緯について
 - ・会議の目的及び第5回会議までの経緯
 - ・トライアル事業の実施状況について
 - (2) 環境教育・環境学習に関する報告事項について
 - ・横須賀市の里山保全事業について
 - ・環境教育推進法の改正等について（環境省資料）
 - (3) 意見交換
 - ・平成24年度以降の環境教育事業について
- 5 その他

◆ 決定事項

環境教育・環境学習ネットワーク会議会長 高橋弘二氏

環境教育・環境学習ネットワーク会議副会長 鈴木 衛氏

◆ 議題の要旨

- (1) 環境教育・環境学習ネットワーク会議の開催経緯について（事務局より説明）
 - ・会議の目的及び第5回会議までの経緯

・トライアル事業の実施状況について

(2) 環境教育・環境学習に関する報告事項について

・横須賀市の里山保全事業について 自然環境担当 秋山主査

里山的環境とは人々の生活にとって身近な自然環境となっている地域であり、農業などを通じて、人が継続的な手入れをすることで保たれた自然環境であり、様々な生物が生息する場で、絶滅の恐れのある希少種の生息地もある。

特徴として、原生の自然ではなく、田や畑を人が手を入れて保たれてきた環境であり、都市化や農業人口の減少によりその多くが失われている。

そのため、里山を将来に引き継いでいく事、自然を体験できる場、生物多様性の保全、雑木林の間伐による防災面での適切な維持管理手法と活用の検討を目的としている。

計画における位置付けとして、「横須賀市実施計画（平成 23～25 年度）」重点事業、「横須賀市環境基本計画（2011～2021）」リーディングプロジェクトとなっている。

事業案としては、モデル地区の選定後、市民、事業者、市が連携して水田や雑木林などを回復させ、人々が身近な自然を感じられる憩う場を作り出そうとする事業を考えている。

活動の事例案としては、田植え、稲刈りや収穫祭等のイベントの開催、自然観察会などでの環境教育の場としての活用を考えている。

活動組織としては、多様な役割を担う団体が連携して、協議会形式での組織運営を想定しており、今後各団体に呼び掛けを行っていく予定である。また、自立的な活動を継続するために人材の確保と育成、普及啓発活動、自主財源の確保を行っていく必要があり、それについては、今後検討していく。

市の役割として、モデル地区の確保や必要な用具の管理や参加者の保険加入などでの活動の支援を行うとともに、当面は市に事務局を設置し、各主体間や案件の調整を行う予定である。

今後のスケジュールについては、今年度は、モデル地区の確保のための候補地の選定、地権者との交渉を予定している。平成 24 年度には、活動組織を設立し、必要最低限の整備を予定しており、平成 25 年度に活動を開始することとなっている。

モデル事業でのノウハウを活かして、里山的な環境を蘇らせる活動を広げていくことを目指す将来像としている。

(大森自然環境担当課長)

今年の 4 月に環境政策部ができ、環境企画課自然環境担当ができた。説明した事業の他に

横須賀エコツアーもある。環境基本計画の施策のひとつとして位置づけている里山的環境保全・活動事業については、民有地の自然を将来にどのように残していくかというコンセプトもあり、詳細はこれから作り上げていこうとしている状況である。

(野崎委員) 今年度はモデル地区の選定とあったが、候補地はいくつかあがっているのか。

(大森自然環境担当課長) 11か所の候補地について、現地調査を行った。水源があるかどうか重要なポイントであり、その観点から現在は2か所に候補地を絞りこんでいる状況である。民有地での事業展開のため、現在は土地の所有者と、今後土地の利用についてどのような利用が可能かを交渉している段階であり、実際には、協定書を結んだ段階で候補地と決定する予定である。

(鈴木副会長) モデル地区の選定基準について、また、希少種にはどのような物があるか。

(大森自然環境担当課長) 選定基準については、市内において全ての要件等を満たした里山は難しいことから、里山的としている。基準としては、田んぼで活動を行える場所、樹林地管理も考えているので、その活動が行える場所、また、希少種がいて保存を求められているかといった観点から選定している。

当初は、1か所を考えていたが、可能なら2か所を考えている。

(秋山主査) 希少種については、トウキョウサンショウウオがあり、まとまって生息する場所が少なくなっている。

(高橋正明委員) 里山保全は継続が大事だと思うが、そうすると組織、費用、事業体まで踏み込む時が必要になってくると思うがその計画は現在どこあたりまで考えているか。

(大森自然環境担当課長) ご質問のとおりの内容まで網羅できるのが理想であるが、民有地の里山的環境保護であることから継続性が必要なため、スタート時点としては土地所有者との話し合いの中で最低でも10年間の利用を図らしてもらいたいと考えている。

単年度事業では行えない事業内容で、活動形態はソフト事業であるため、どうしたら継続的な事業として成り立っていきけるかを今後検討していきたい。ご質問の内容についても現在プランニングしているが、具体的な部分はこれからなので今後とも委員の皆さまのご協力をお願いしたい。

(高橋正明委員) 場合によっては、農家の方と一緒にいることがあるのか。

(大森自然環境担当課長) ご質問のとおりであるが、地目は農地でも実際は山林のところがある。ただし、農地法の適用はあるので、そういった場所も田んぼとして再生できればと考えている。市内で田んぼを行っている農家の方は、高齢化しており、農業の継続困難の方には援農のような場面も考えられる。

田んぼ以外でも樹林地の管理などを含め全体としてコラボレーションでき、継続性を持つようなものにしていきたい。

(高橋会長) 重大プロジェクトと思うが全庁的な取組はどうなっているのか。例えば、希少種は博物館、水系は河川課、農地は経済部、都市開発は都市部になると思うが、その各部署の担当が集まり検討を行っているのか。

(大森自然環境担当課長) 平成 23 年 4 月から庁内関係課長会議を設置し、必要に応じて開催し、現地視察を含めて 3 回の会議を行っている。

裾野が広い事業の要素があるので、特に博物館からは専門的な意見をいただくことになるが、生物多様性については、市内の自然環境の指標をリサーチしていきたい。例えば、1 つの学校にお願いして子供がどのような部分の生きものに興味を持っているか等の指標の調査も検討しており、博物館や教育委員会事務局とも話をしている。また、委員の皆さまにもご意見等のご協力をお願いしたい。

(野崎委員) 2 か所選定において田んぼを重視する説明であったが、市内は田んぼが少ないのでまず田んぼから始めることは賛成である。その次に、樹林地が多い横須賀なので、雑木林にも焦点をあててそのモデル地域を選んで行ってほしい。

(大森自然環境担当課長) 田んぼを重視するのは、水辺環境ということで、隣りには樹林地がありセットで考えている。

(稲委員) この田んぼと畑を小学校が借りることができるのか。

(大森自然環境担当課長) そのような利用に対して、継続的な提供をできればと考えている。

(本多課長) 今回この議題を上げたのも、稲委員から示された要望に答えられるよう、市としては、フィールドの提供も目的としている。

再生プロセスへの参加と再生後の里山のフィールド参加での自然体験・農業体験、自然と人間が折り合いをつけていくことを学ぶ場として考えており、委員の皆さまの今後のご意見、ご協力をお願いを含め本日説明をさせていただきました。

(高橋会長) この里山は、横浜市は先進的に取り組んでいるので、横須賀市でもこの取り組みが行われることはいいことであると思う。いままでなかったのは、逆にいえば、横須賀市は自然が多いということであると思うが、この里山の取り組みは是非進めてほしいところである。

・環境教育推進法の改正等について（環境省資料） （事務局より説明）

(3) 意見交換

①平成24年度以降の環境教育事業について

今後の環境教育事業について（事務局より説明）

ネットワーク会議ででた、5つの課題

- 1 効果的な周知・啓発
- 2 対象に応じた学習の実施
- 3 実践活動に繋げる仕組みづくり
- 4 人材の育成
- 5 協働・連携するためのシステムづくり

事業の実施を図るために、この5つの課題を解決する内容が必要となる。

今現在、トライアル事業にて委員の皆さまからの意見をいただいて実施しており、それ以外にも環境企画課での事業実施がある。

ひとつの例であるが、自然環境担当での里山の取り組みもあり、ひとつの考え方として、今後のシンボル事業として集約していくことができるのではないかと。大人には生涯学習における環境学習の推進、エコツーリズムへの発展、里山保全活用の実践。学校には環境体験の場の確保から、カリキュラムの作成、そして、市内の至る所に広がっていく仕組み作りが必要と考え、来年度事業実施における目標と考えている。

今後このような方向性での事業を考え、事務局から提示をさせていただきました。

委員の皆さまには、里山的保全事業への取り組みや環境教育に関わる法律が変わり、より

協働・実践が強く謳われる中で、現在の事業や今後行うべきについてご意見を伺いたい。

(依田委員) 環境パネル展についての説明があったが、11月に小学校で展示が予定されている、その際に、子どもの理解のためにも学校の要望があれば、環境教育指導者を派遣した方がよいと考えるがいかがか。

(高橋会長) 学校の観点からどうか。

(橘委員) 以前、海に遠足に行く前に、海に特化したパネルを借りた。そのまま、展示しているだけでは子どもは通り過ぎてしまうので、見る時間を設ける工夫をしたが、さらに指導者の方から授業の中で体験を交えて説明してもらえれば効果的と感じる。

先日クラスの授業で、派遣授業を活用してもらい川の水質調査を行った。子ども達も喜んで行っており、いい授業と感じた。ただ、利用する人が少ない印象があり、今年度小学校の派遣が4回とのことであったため、もっと活用した方がよいと思うので、学校の研究会でもアピールしていきたいと思う。

(高橋会長) パネル展に関して、稲委員はいかがか。

(稲委員) まだパネル展は利用したことがない。そのため、今後活用を検討したい。

派遣授業については、学校のビオトープを良くする活動を行っており、高橋会長にご協力いただいて水質調査や動植物の説明を行っていただいております。そのため、4回の内の2回は、この中の委員の活用のため、橘委員と同様に広めていく事が必要と感じている。

(高橋会長) 「よこすかのかんきょう」を配布となっているが、どのように活用されているか。

(橘委員) 昨年度、5年生を担当しており、環境をテーマにした総合的な学習を進めていたので、このテーマを活用させていただいた。他のテーマにて学習を進めている学校、クラスでは活用しているかは不明である。ただし、全校に配布しているのは、社会科等でも活用でき、見る機会があるため意味があることと思う。また、教科書は全国の内容に対し、横須賀市内の環境の冊子であることにも意味があると思うので続けてほしいと思う。

(高橋会長) 配布した後に効果があったのかどうかを調査しているのかどうかを伺いたい。そして、来年度どうするのかを把握しているのか確認したい。

(事務局) 2年前に小中学校の先生にアンケートを行った際に、「よこすかのかんきょう」はあまり認知されていなかった。配られているだけでは、活用されていない実態が見えており、来年度以降は全配布でなく、希望の学校等の必要としている所に配布することを試験的に行うこととしている。

(高橋正明委員) 必要と思われる先生に配布との説明があったが、その先生を増やす方策も必要と思われる。例えば、「よこすかのかんきょうの使い方」といった先生へのセミナーや、先程のパネル展での指導員の説明などで、環境教育の興味を持ってもらえる機会を作ることによって、この冊子を作る有効性がでると思うので検討してもらうのがいいと聞きながら改めて感じた。

(高橋会長) 話題が小中学校になったが、環境教育は、子ども達だけでなく大人にも必要なことなので、事業者の方の意見を伺いたい。

(新宮委員) パネル展は、どのようなものか分からない所があるが、展示は可能と思える。

(高橋正明委員) 地球温暖化対策地域協議会の代表としてきているが、環境教育の話の中で里山などの自然に関する議題は出ているが、温暖化対策についても事業の中に入れてもらえればと思うがいかがか。

(本多課長) 今回の議題の中では、自然がクローズアップされているが、事業としては、パネル展、「よこすかのかんきょう」、横須賀E C O大賞にも温暖化対策も対象として含んでおり、地球温暖化対策地域協議会との繋がりをもっていきたいと考えている。

(高橋直人委員) 環境教育は、環境企画課だけではなく、生涯学習センターにおいても、地球温暖化対策、エネルギー等の環境に関するいろいろな講座を開催しており、それを含めて横須賀市の環境教育を進めていければいい。

里山について、子どもは学校活用での教育。大人は、エコツーリズムとあったが、地域は、子どももいて、大人もいる中で双方が一緒に取り組む場であってほしいと考える。

(高橋会長) 町内会の立場として、依田委員にご意見を伺いたい。

(依田委員) 町内会で5回、親子で楽しむミニ環境展を実施した。動機づけが目的であるが、町内会は役員が代わるため、継続をするためには役員への説得が重要である。

町内会だけでなく、横須賀市の市民がそれぞれ取り組んでいく事が大切であるが、環境家計簿として、県で「エコポ」というものがある。各家庭でどれほどのCO2を発生しているかが分かるものであるが、環境にタッチできる仕組みを市やこのネットワーク会議で作っていくことが大事であると思う。

参加することによって、先程の地球温暖化の問題へも繋がっていくので、まず参加していく仕組みが必要である。

「エコポ」の利用については、私の知っている範囲では市内に2~3名であるが、これも500名位まで増えていくようにPRも必要であると思う。

町内会に戻ると、環境家計簿を利用している方は、15~20%の削減を行っており、利用していけば、削減効果は出てくると感じている。

(宇佐美委員) 高橋直人委員の話にもあったが、地域との結びつきは大事であると考えられる。里山の環境の事業が具体的になってきた際は、ぜひ繰り返し利用をしてもらえる内容を行ってもらえればと思う。また、地域の学校に働きかけを行っていく事も大切である。

一方、その環境から離れた学校はイベントになってしまうが、今回の新規事業である猿島体験事業はいい取り組みと感じた。学校での授業において、環境という教科はなく、

それぞれの教科で学ぶのみである。そのため、行事とうまく結び付けることがポイントである。また、教職員の研究会との結び付きも大切であると感じる。

(原口委員) 里山での体験学習が行われるのは平成25・26年度までは難しいという話があったが、子ども達に里山の現状を知るという事から、保全活動を一緒に行っていくことも学びになると思う。

学校の中で環境の時間を作ることは難しい。そのため、各教科において、環境の視点を子ども達に持たせる事が大切であると思う。ネットワーク会議での課題にあった効果的な周知という部分が大事であり、その点から、情報誌であるよこすかECO通信を発行している中で、学校においてどのような効果があるのかを検証していく事も大切であると思う。

(瀧上委員) 私はごみリサイクルが専門であり、今日はその方面での話にはならなかったが自分自身もネットワーク会議に参加するとともに環境に関する活動に携わっていきたい。

また、ごみ・リサイクルという部分において、自身の専門を会議に活かしていきたい。

(大森自然環境担当課長) 里山への意見、ご提案ありがとうございます。

学校教育とのコラボレーションとともに、親子、大人での場面設定も重要ではないかとの意見もいただきました。現在、他市において参考にしているのは、きのこの収穫祭といったイベントがある。また、市内の事業で田植えのイベントがあったが、参加申し込みが非常に多かった。市民の興味も多いと思われるので今後色々な場面設定を検討していきたい。

(鈴木副会長) 環境ポスターコンクールについて、今年度は、小中学校と高校が対象という事で、昨年度は小学校が中心であったと思うが、今年度の申し込みは 754 点ということであるが、昨年度の申込件数はどの位であったか。

(事務局) 昨年度は、300 点程である。

(鈴木委員) 申し込みも倍増した事もあり、子ども達の環境への興味が増していると感じることができた。

(高橋会長) 委員の皆さんからもひと通り意見をいただいたところもあり、本日はこれで終了とする。新しい委員でのネットワーク会議として、定例の会議以外でも必要であれば会議を行っていきたい。

【事務連絡等】 第7回は、来年の2月に開催を予定。日程調整を後日行う。